

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103212		
法人名	有限会社キョーシン福祉会		
事業所名	みずき苑		
所在地	熊本県熊本市北区龍田5丁目12番4号		
自己評価作成日	平成30年12月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

学生達の通学路の声・電車の音をすぐそばで聞くことが出来て、古民家風ホーム、玄関を入ると大きな柱時計、家族の方々が玄関を開けると「ただいま～」と言ってしまいます、と訪れた時には言われるくらいです。  
満足感と安心感があるように考え、地域の方々とのコミュニケーションを大切にし、地域の中で笑顔があり楽しく生き生きと生活して頂けるよう、施設作りを職員一同心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&amp;type=top&amp;id=21331">http://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&amp;ty pe=top&amp;id=21331</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成31年2月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台にあるホームは地域を望み、眼下の通学路からの小学生の声を聞きながら過ごせる環境にある。また、天気の良い日は昇る朝日を見る事が出来、入居者の中には一日の始まりに感謝の手を合わせる方もおられるようである。民家改修のホームは経年や熊本地震の影響で、決して整った環境ではないが、職員はアットホームな時間を心一つに作り出し、日々のケアにあつたている。子育てしやすい職場環境にも取り組んでおり、入園前の子どもを同伴しての出勤も、入居者にとって更に笑顔と活気のある時間になっている。代表者を中心にした食材の買い出しから、手作りにこだわった家庭的な毎日の食事の提供は、元気の源となっており、残食が殆どないことから満足度が伝わってくる。立地の面や入居者の身体状況から、気軽に外出することは困難な状況であるが、今後も玄関先の草花を眺めながらの日光浴など、入居者と職員のゆくりとした時間を継続されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方々の人権を尊重としたケアを基本とし、理念に沿った目標の具体化に努めています。玄関を上がり1度立ち止まり、各々で理念の唱和をしている。	民家改修型のホームは、音響がしい玄関を入るとリビングから入居者の会話が漏れ、台所からの音や匂いに包まれている。職員は出勤と同時に玄関内の理念に目をやり、唱和して業務に入ることが日課となっている。開所時から変わらぬ理念は、行動指針として定着しており、入職した職員へも理念を通じ、ホームが取り組んできた入居者との笑顔のある暮らしを伝えている。	今後理念を振り返る機会として、各自の自己評価や、見直しや継続を含めた理念の検討の場を望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々から孤立することなく、地域清掃等に参加し交流に取り組んだり、ボランティアの訪問等の交流を継続している。	代表者は時間があればホーム周辺の安全確認や、道路清掃を行い入居者が地域へ出る機会を支援している。地域との日常的な交流はないが、散歩中の会話や近隣住民からの差し入れなどを通じ、地域と繋がっている。折り紙ボランティアによる作品作りは楽しみとなっており、リビングや廊下を彩り、入居者の励みとなっている様である。	今後も地域の人々が気軽に立ち寄れるような環境整備や、中断している中学生のナイストライなどの受け入れを再開することで、入居者の生活がより豊かになると期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の折り紙ボランティアの方へ月1回来苑してもらおうようお願いし、入居者の方々と触れ合う事で理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、月ごとの活動報告を行い、その際、自治会や包括の担当の方々の改善課題等を話し合う機会を活かし、意見を伺い対応している。	会議には包括職員や民生委員・自治会長などが参加し、ホームの現状を詳細に伝える中で、意見を仰ぎ支援に反映させている。また、実例を通し身体拘束に対する姿勢や取組を伝え、外部研修直後のカンファレンスで共有すべき事項を再認識したことを報告している。グループホームでは、事例の無いペグ(胃ろう)対象者の受け入れに向け、県への登録や看護師を中心に体制作りを進めている。	運営推進会議での情報量が議事録からも伝わり、この一年のホームの取組みが窺える。意見のあがったヒヤリハット報告については、次回会議より報告をする事としている。家族も高齢化する中ではあるが、引き続き会議への参加を呼び掛けて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方(福祉課)に電話等にて相談助言をもらい、情報の共有に取り組んでいる。	包括職員の運営推進会議への参加により、情報を共有し助言をもらったり、不明な点を行政に尋ねるなど運営に反映させている。本年度は外部研修での内容を職員といち早く共有するなど、スピーディな対応に努めている。認定調査時には看護師が立ち合い、入居者への適切な支援のため努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止へ向け職員の理解浸透をはかり、朝礼等にミニカンファレンスを実施することにより、職員の意識づけを行っている。	ホームの玄関は日中オープンにしており、入居者が庭先に自由に出られる姿が確認された。外部研修での資料を基に全職員への共有の機会が持たれ、拘束が虐待につながることを認識している。現在、1名の入居者に人感センサーを使っているが、様々な手を尽くした後、家族の了承のもと対応しており運営推進会議でも紹介している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間での共有認識をはかり、確認の場を設け統一を実施し、事業所内にパンフレットを提示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関・事業所内にパンフレットを置き、家族の方々や職員が見られるように配置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等で詳しく説明し、又、改訂時には同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱等を設置し、意見を反映し、来苑時には要望等がないか確認を行っている。	入居者との日々の関りから意見を聞くようにしている。ホームへの要望は無いが、したいこと、食べたい物を口にされる方はおられるようである。本年度は運営推進会議を利用し、男性入居者の司会進行により「家族感謝の会」を開催するなど、家族や入居者、地域の間を縮める新たな取組を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り・ミーティング等で現場の意見を聞き、代表者と協議をし、現場の業務に生かせるように務めている。職員には、申し送りノートにて周知している。	職員は申し送りノートを活用し、入居者の状態を共有したり、日頃の気づきはその都度口頭で意見を出し合っている。本年度の大きな取組として夜勤体制の充実に向け、時間帯の変更を行っており、入居者の支援に反映されている。代表者は機会あるごとに職員の見聞を聞き、働きやすい環境作りに努めている。	外部研修後の復講により職員の意識強化を図っており、今後は年間研修計画の作成により、より充実した研修体制が実現できるものと思われる。着手を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアマネ、管理者との連帯により、個々の状況を把握し、内部での勉強会の推進、外部への参加を推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネ、管理者との連携で個々の状況を把握、内部での勉強会の推進、外部への参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内での勉強会、外部研修会への参加、協議会に参加し、意見交換や情報収集に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	観察を細かにしながら支援が必要なアセスメントを行い、常に笑顔で接し、温かな雰囲気の中で安心できる環境の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、アセスメントによりプラン作成に心がけて同意を得ている。来苑された時には近況報告を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期情報(サマリー等)面談によりアセスメントを行い、必要な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事ややりたい事に注目、生活を共にする気持ちを大切にして、入居者の以前の生活を理解し、お互いに支え合い共感ができるような関係の構築に務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には御家族の参加をお願いし、本人と家族の触れ合う時間を作り、面会時も心地よく過ごして頂けるように雰囲気や情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣・親族の方々の来苑を歓迎し、ゆっくりと触れ合う環境作りに努めている。	入居者がこれまで馴染んできた暮らし方が引き続きできる様、体制作りに努めている。現在もタクシーを利用し自らかかりつけ医を受診する方や、馴染みの丹前姿で受診する方もおられる。リビングで新聞を読まれたり、愛用のたばこを本数を決めて庭先で楽しまれたりと様々な形で後押ししている。朝日が顔を出すころには、入居者がリビングに集まり、空に向かって手を合わせる姿も日課となっており、馴染みの暮らしが継続できるように工夫を凝らしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格・個性を把握し、スムーズにコミュニケーションがとれるように気配り、環境作りに配慮し、居場所を大切に考え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約書終了後、家族がいつでも相談できるように、関係の継続に心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や家族来苑時に本人、家族より要望を伺い、希望や要望に添えるように支援を行っている。	入居者の中には夜勤者に自分の思いを伝え、安心して眠りに作り方もおられ、職員は情報を共有して意向に沿うよう努力している。表現困難な方には表情やしぐさから思いを組み取ったり、家族に意見を求めながら確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、基本情報聴取やアセスメントに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活状況について経過記録や担当職員とのモニタリングにより、現状の把握や確認に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員のモニタリングにより、ケアのあり方について相談したり、家族来苑時には意向確認を行い、プランに反映させている。	職員を入居者の担当制としており、日頃の様子を記録しながらプランに繋ぐようにしている。入居者個々の力が発揮できる内容や、楽しみ事に繋がる内容をあげ、ホームでの生活を豊かにする工夫をしている。日中の失禁が増えても布パンツでの生活を支え、自ら下着を洗濯する方、好きなタバコが継続できる環境作りなど、家庭の延長としての支援をプランニングしている。その中で2名の入居者の介護度が軽減したことは職員の自信にもなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日誌に記録し、毎朝カンファレンスを行い、連絡ノートを活用し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容の利用、ボランティアの活用等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月ボランティアの訪問を実施し、先生方の協力の元、楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、事業所のかかりつけ医の説明を行い、希望に添うように支援している。	入居時に希望するかかりつけ医の確認を行っており、現在殆どの方が協力医による訪問診療や受診を支援している。中には自身のかかりつけ医に受診に出かける方もおられる。他科受診についても、ホームでの対応を基本としている。受診結果は家族へ報告を行い、現在の状況を知ってもらうようにしている。日々の健康管理はバイタルチェックや食欲、表情などから察し、異常があれば早めの受診に繋げている。血圧が高めの方には、職員によって誤差がないよう測定時間や計測方法を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきがあれば、ケアマネ、管理者に連絡又は報告を実施、連絡ノートで職員には周知し健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を行い、退院の際は事前に訪問し情報聴取を行い、かかりつけ医への情報提供や職員への周知をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時主治医と家族との面談を設定し、治療方針終末期ケアについて説明し、同意を得て、プランにも取り上げケアの統一を図る。	入居時に重度化・終末期に関する指針をもとに、ホームの取組を説明し、その時点での同意書を得ている。殆どの方が慣れ親しんだホームでの最終を希望されており、そのような状態になった場合はあらかじめ意向を確認し、看取りにあたっては家族の協力をお願いしている。看取り支援後は、その方を偲びながらカンファレンスを行っている。	ホームは看取りに関わらず、日頃の関わりを大切に全職員がチームワークを大切にしている。夫婦での記念写真を撮っておきたいなどの意向も出されており、実現が今後の生活をより有意義な時間にしていくものと考えている。取組に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には主治医へ連絡し、指示を受け、緊急時対応の本も常備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施、防災時の避難経路の確認を職員の共有として周知している。	今年度は現在の所、2回の災害訓練には至っていない。災害食備蓄としては米50キロと冷凍食品3日分を確保している。	防災訓練を計画的に実施し、職員の意識を高め、有事に備えていくことが重要である。近隣者や家族へも参加を呼びかけ訓練の実現が求められる。また、備蓄については職員間で必要な物をリストにし、備えていかれる事が期待される。また、居室をはじめコンセントの埃など、細かな安全チェックを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護、利用目的等を家族に説明し同意を得て、言葉遣い・身だしなみ等、意識の統一を図っている。	入居者への対応は親しみの中にも失礼の無いよう注意を払い、呼称は本人や家族の要望なども確認し、苗字や下の名にさん付けで対応している。方言も大切にしており、熊本弁に加え、県外の方言についても入居者から教わりながらコミュニケーションを図れるように努めている。外出時には特にその方の好みなども活かして支援している。居室へ入る際はノックや了承を徹底している。	代表者は入居者への尊厳やプライバシーへの配慮について、気づいたことや気になることがあれば指導を行っている。洗濯物を干すスペースは限られているが、今後も下着の干し方への工夫など配慮を願いたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断がしやすい声掛けを心がけ、ゆっくりとした会話の中に意思疎通が図れ、自己決定ができるように働きかけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクレーション・入浴等の希望を聞き、状態に合わせて決めて頂き、ゆったりとした時間が流れるように利用者優先の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等は季節や好みに応じ、入浴後は個人の化粧水を使用。散髪も2ヶ月に1回訪問して頂き、髪型も要望に答えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で手伝って頂いたり、リクエストを頂いて、対応している。	入居者の好みや旬を活かした献立を作成し、調理専任者を中心に職員による調理は日々の楽しみの一つになっている。盛り付けへの工夫や個々の嚥下力に応じた食形態により、残食もなく「うまかなあ〜！」の入居者の声からも満足度が伝わってくる。普段の調理に入居者が関わる機会は殆どないが、下膳や味の評価など出来る事で食への関わりを支援している。	今後も入居者の楽しみとなる食事支援の継続に期待したい。また、検食簿への記入は、次回に活かせるコメントの工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分チェックノートを利用し状態に応じ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のレベルや状態に合わせて、口腔ケアの声かけ、支援を行っている。訪問歯科を利用したり、馴染みの歯科へ家族の方が同行され、個々に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っている。	個々の排泄パターンを職員間で共有し、屋間はトイレでの排泄を基本とし、布パンツやリハビリパンツにバットの併用で過ごされている。夜間は尿器やポータブルトイレを使用される方もあり、ポータブルトイレは、洗浄やハイター消毒、天日干しにより清潔に管理している。現在、看護資格を有した職員を中心に、ペグ対応もできる体制を整えている。	排泄用品はホームで適切なものを検討し、購入している。オムツに頼らない取り組みは、尊厳や家族の負担軽減にも繋がっていると思われる。継続した取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便できるように、乳製品や食物繊維を多く取り入れたり、体を動かされるように声かけして努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴して頂き、その日の体調に合わせて清拭を実施。入浴日でないときは、陰洗を行っている。	入居者の体調に配慮し、基本的に週2～3回午後を中心にゆっくりとした入浴支援に努めている。シャワー浴が中心になられた方には、かけ湯や足湯、シャボンパックでの足浴をはじめ、皮膚疾患（巻き爪他）時は、皮膚科受診後の浴室や湯上り後の手入れなど、個々に応じて対応している。既存の建物を改修しており、高齢の入居者には段差など不備な面もあり、今後改修も検討されている。	季節の柚子湯なども入居者にとって喜ばれることもあり、今後の入浴支援に取り入れる事も良いと思われる。脱衣所に置かれた爪切りなど、ど安全面から保管場所の検討が必要と思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操・レクレーションで活動性を考慮させて頂き、室内温度管理を行い、冬場は湯たんぽ活用したり、気持ちよく睡眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋ファイルを作成し、いつでも職員が確認できるように行い、毎食時与薬確認チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を知り、若い時の仕事や趣味などを職員が把握し、アプローチを行い生き生きと生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外気浴・散歩を行うことで、季節感を感じて頂いている。	立地面や入居者の身体状況から全員でのドライブや頻繁な外出は困難な面もあり、玄関先での日光浴や個別での散歩を主に行っている。入居者の中には変わらず、自身でタクシーを依頼し、受診などに出かける方もおられる。今年度バラ園への見学予定を変更して、コーヒー専門店でお茶会を楽しんだようである。テラスで入居者の笑顔の様子が写真にも残されている。	今後も散歩や外気浴など身近な外出支援の継続や、家族も一緒に外出できる企画と働きかけを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力、認知症の症状を見ながら、本人の希望と家族の意見を聞き支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば職員が電話をかけ対応し、レクレーションの一環で年賀状等を作成し、家族へ郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、湿・温度計・加湿器を設置し対応。ホールでは、自由に過ごすことが出来、天気の良い日は昇ってくる朝日を見ることができる。	玄関はフルオープンにすることで、採光や圧迫感、臭気もこもらない空間となっている。日中はリビング食堂で過ごす時間が多く、温湿度計や入居者に聞きながら適温に努めており、冬場は特に感染症への対策を兼ねて加湿器を設置している。テーブルの配置や入居者の席も身体状況や、介助の度合い、相性などを考慮してその時々で検討している。高台にあるホームは眺めもよく、朝日に手を合わせられる方もおられるようである。	ホームの玄関先には草花が咲き誇っており、今後もそれらを活用しながら季節感のある環境で、入居者との会話にも繋げていかれる事を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のADLに合わせ、テーブル配置を考慮し、環境面を把握し落ち着いた居場所作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、本人・家族様と相談し決めている。居室は個々の希望に応じ、馴染みの物を持ってきて頂き、安らげる空間づくりに努めている。	居室は自宅や他施設からの入居など、これまでの本人の状況や環境を考慮して、家族と相談しながら進めている。馴染みの物があることで安心や居心地のよさに繋がる事を説明しており、椅子やタンスの他、写真の掲示、コタツの置かれた部屋もある。テレビを持ち込まれた方は、ドラマや野球、サッカー観戦を楽しまれている。居室での生活が中心になられた方にも、職員は小まめに訪室や声掛けを行い、ホームの一員である時間を過ごしてもらえるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札・カレンダー・家族の写真を活用し、場所が分かるように表示し、歩行者・車椅子の方への安全に考慮している。		